

## 東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from one semester to a year)

記入日/Date: 2020/5/28

■ID: A19122

■参加プログラム/Program: 全学交換留学

■プログラム情報/Program info.: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

■派遣先大学/Host university: 国立台湾大学(NTU)

■留学期間/Program period: 9/3/2019 ~ 5/28/2020 (MM/DD/YYYY)

■東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 人文社会系研究科アジア文化研究専攻

■学年(留学開始時)/Year at the time of study abroad: 博士3年

## ■留学を決めるまでの経緯/How and why did you decide to study abroad?:

多くの人文系の大学院生が長期留学を経験するので、自分もいつかは、という思いはあった。ただ、これは特に私の専攻が近代日本思想史ということもあるが、日本を離れると資料入手の制約が生まれ、研究が停滞するのではないかと懸念も同時にあった(自分の研究を忘れて1年海外で過ごすということは、少なくとも私にはあり得なかった)。資料については、確かに不便もあったが、取り寄せなどで解消できる部分、また台湾ならではの部分もあったように思う。博士課程に入った直後からいつ留学をすべきなのか逡巡してきたが、結局 D4 夏→D5 夏という期間を選択した。これは、(1)せっかく留学に行くのなら奨学金を受給して行きたいということ、(2)D1→D3 までは学振を受給していたので他の奨学金を併給できないこと、(3)どうせ留学するなら1学期ではなく1年度行った方が良いという周囲の薦めがあったこと、(4)いくつかの論文を書くことができ、なんとなく博士論文の見通しも生まれてきて少し余裕が見え始めていたこと……などの複合的な要因からなる。

## 留学の時期について/About the timing of the study abroad period

## ■留学前の本学での修学状況/Academic status BEFORE the program:

2019年/Academic year / 博士3年/University year / S2 学期まで履修/Completed semester

## ■留学中の学籍/Academic Status during the studying abroad/program:

留学

## ■留学後の本学での修学状況/Academic status ON RETURN:

2020年/Academic year / 博士3年/University year / A1 学期から履修開始/Semester

## ■留学にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to study abroad:

博士課程を終える前の最後の長期留学の機会だったから。

## 学習・研究について/About study and research

## ■留学先で履修した授業科目と単位数の詳細/Subjects taken and credits earned:

近代中日文化思想交流史研究上/2

国際生華語/3

<p>■留学中の学習・研究の概要/Overview of the study/research during study abroad :</p>
<p>日本の文学部の「ゼミ」というのは、教員にもよるだろうが、外国語(or 古典語)の文献を精読するというものが多いと思う(少なくとも自分の経験ではそういうゼミが多かった)。担当学生は紙のレジュメを作り、配布し、文献を精緻に解説していく。一方で、自分が台湾大学で受講した授業にはそのような「精読」式のものは無かった。またシラバスを見ても、そのような「精読」形式の授業はほとんど無いように思われた。また、受け入れ教員になって頂いた佐藤将之先生の授業「観念史研究方法と中国哲学」は、コロナウイルスの影響で佐藤先生ご本人が在外研究先の京都大学から帰れないという事情もあり、日本に先駆けてskypeで遠隔授業を行なった。扱う文献は英語のものが半分、中国語のものが半分程度で、「中国哲学」の授業でありながら)英語文献が多く用いられていること、また学生(院生)も難解な英語文献を読みこなしていることが印象に残った。人文系に限らず、授業で英語文献を多く用いること、また社会科学や自然科学などは学部の初等教育の段階から英語で書かれた教科書を用いるなど、英語に接する機会が多いのも台湾の高等教育の特徴かと思う。</p>
<p>■留学先での 1 学期あたりの履修科目数と履修単位数/Number of subjects registered per semester and credits earned per semester :</p>
<p>1~3 科目/Subjects / 1~10 単位/credits</p>
<p>■1 週間あたりの学習・研究に費やした時間/Hours spent for study/research per week :</p>
<p>21 時間以上 時間/hours</p>
<p>■学習・研究以外の活動で取り組んだもの/Activities you took part in other than study/research :</p>
<p>取り組んでいない</p>
<p>■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由/Details of the activities you chose、 or the reason why you did not take part in any activity other than study/research :</p>
<p>研究に専念するため。</p>
<p>■週末や長期休暇の過ごし方/How did you spend the weekends and vacations? :</p>
<p>週末は、観光地に出かけることもあったが、研究を継続することも多かった。長期休暇で台北以外の都市に行ってみようかとも考えたが、ちょうど1学期(9~1月)が終わる頃からコロナウイルスが流行し始め、結局留学の全期間を通じて台北市内に留まっていた。</p>

派遣先大学の環境について/About environment at the host institution

<p>■設備/Facilities :</p>
<p>図書館:よく大学紹介などに出てくる「総図書館」がメイン。地下には 24 時間の自習室があり、博士課程・教員が使える月極貸出の研究個室もある。スポーツ施設:プール・ジムなど併設の大型の体育館がある。ただしジムはコロナの影響で途中から閉まってしまった。また、正直ジムの設備(更衣室・器具など含む)は御殿下ほどは良くない。食堂:東大のような生協食堂があるわけではなく、フードコートがキャンパスにいくつか散在している感じ。いちばん大きなものは「第一学生活動中心」で、安いビュッフェ形式のブースがあり、私はそこをよく活用していた。wifi:だいたいの建物の中はwifiが通っており、それなりに安定して通じる。たぶん「ntu_peap」というwifiをもっともよく使うことになる。</p>
<p>■サポート体制/Support for students :</p>
<p>渡航前にボランティアの学生が割り当てられることになっているが、どれほど協力的か、あるいはどれほど留学生の行う手続きを熟知しているかはその人次第というところがあると思う。ボランティアの学生は、少なくとも英語でのコミュニケーションが可能(日本人だからと言って日本語を話せる学生が割り当てられる</p>

わけでは無い)。

## プログラム期間中の生活について/About life during the program

### ■宿泊先の種類/Type of accommodation :

学生寮

### ■宿泊先の様子、どのように見つけたか/Environment around the accommodation and how did you find it :

水源宿舎。大学正門から徒歩 5 分程度。付近にやや大きめのセブンイレブンがある。学生証を見せると 1 割引き(会計時に「有台大簽證嗎?」と聞かれる)。個室・2 人部屋・3 人部屋の選択肢があるが、私は個室を申請して希望が通った。日本の 20 平米程度のワンルームマンションよりもやや広く感じる。ただし室内は調理禁止(電子レンジ含む)。洗濯機・乾燥機は地下のコインランドリーを使用する。ユニットバスで、湯船は無い。室内に大学の wifi が通っているが、有線 LAN ケーブルでもネット接続可能。前の居住者が退去(おそらく 6~7 月)してから入居(9 月)まで、業者清掃などはおそらく入らないので、最初は基本汚い(室内でも土足の居住者が多いこともあると思う)。私のときは、入居直後に宿舎前広場にカルフルのテントが出て日用品・家具・清掃用具などを売っていて、2~3 日はそこで色々と装備を調達しながら部屋の清掃に明け暮れた。また、入居早々に宿舎のロビーで「台湾之星」の留学生専用の半年 or 1 年用 SIM カードが格安で販売されていた。それほど早くは無いが、容量無制限で使えるのでありがたい。

### ■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等/Climate、environment around the institution、transportation、food、etc. :

一年を通して湿度が高い。私は到着早々に PCHome(台湾の大手 EC サイト)で除湿機を買った。届いた大型荷物はフロントで預かってくれるので、ネット通販が便利(代金の振り込みは市中の ATM で行った)。水源宿舎の一角にはやや大きめのセブンイレブンがあり(上述)、食料品やちょっとしたものはそこで揃う。また数分あるくと地下鉄「公館」駅前の繁華街に出られ、ドラッグストアが散在しているので、特に買い物に困ることはない。日本からの輸入品も多く、おそらく日本で普段使っていたもの、もしくは十分な品質の代替品は、大抵の場合手に入る。ただしハードのコンタクトレンズをしている人は洗浄液を持参した方がよい(台湾は基本メガネ文化で、コンタクトは女性向けのソフトレンズ・カラコンなどしか無いため)。大学正門までは徒歩 5 分程度。ただし朝晩は原チャリの交通量が非常に多く、また運転も東京よりは概して荒いため、注意が必要。地下鉄(MRT)の最寄駅は「公館」。台北駅や、人気観光地の「西門」までも近い(15 分程度)。ただし MRT の構内では飲食禁止で、かつ 2020 年 5 月現在はマスクの着用が義務化されているので注意(マスク着用義務はバスも同様)。食事は、台湾旅行などのブログや動画などで散々紹介されていると思うが、概して日本人にもなじみやすいと思う。食べ物に限らず、物価一般について、ローカルなもの値段は日本より安めに感じるが、一方でグローバルブランドや日本含む海外からの輸入品はそれなりの値段。ドラッグストアの日本輸入品が日本価格より安いということは無い(だいたい 20~30%増し)。

### ■お金の管理方法、現地の通貨事情/Management of money and situation about local economy :

入境時の手持ち現金(10 万円程度。台湾の空港で両替した)が尽きた後は、クレジットカードが使えるときは(日本で使っていた)クレジットカードを使い、それ以外の現金が必要なときは「ネオマネー」を使って ATM から現金を引き出して「悠遊卡」にチャージしたりしていた。大学のいろいろな手続きが済むと学生証がもらえるが、裏面が「悠遊卡」(SUICA や PASMO 的な IC カード)になっており、駅やコンビニなどで現金をチャージして使えるので便利。大学近くのセブンイレブン(上述)では、学生証(「簽證」)を見せつつ悠遊カードで決済できるのでとても便利。ただし現金オンリーのお店も多いので、現金の手持ちは必要。いわゆる

「宝くじレシート」については、スマホで管理できるアプリがいくつかある。会計時にアプリの専用画面を見せ(「有載具嗎？」などと聞かれたりする)、読み取ってもらうと、レシートを管理する煩わしさから解放される。

■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理/Aspects of risk and safety management, local health care system, and any actions taken to maintain your health :

大学周辺の治安は良好(交通事情は別)。ただ、MRT「公館」駅前は繁華街でもあるので、休日などは怪しい勧誘などもある。若い男性(おそらく台湾大学の学生)をターゲットに何かの声かけ・勧誘を行なっている女性グループがいた。また、士林や九份などの有名観光地に行くと、スリなどのトラブルに巻き込まれる確率も上がるので注意。正門前に吉野家があるので、日本食が恋しくなってきたときはよく行っていた。

#### 留学前の準備・手続きについて/About preparations and procedures before studying abroad

■ 留学先への入学手続き/Procedures for enrollment required by the host institution :

・英文成績証明書、パスポートのコピー、医療・損害保険の証書、誓約書など、署名+提出程度で済む簡単な事務手続き系書類がいくつかある。・修学理由・目的・計画などを述べる「読書計画(Motivation Letter)」「(英 or 中)。書式・長さは自由。私は A4 で 1 枚、中国語で用意し、知人に添削してもらった上で提出した。・台湾大学へ提出する健康診断表(「健康検査表」+「丙表(C Form)」)。血液検査や麻疹・風疹抗体検査・肺結核検査などが含まれる。渡航が決まったら、ビザ用の健康診断書類(後述)と合わせて、早めに保健センターへ相談に行く方がよい。

■ ビザの手続き/Procedures to obtain visas :

大学院への 6 ヶ月以上の留学の場合、居留査証(Resident Visa)を申請する。申請から 3 ヶ月以内に作成した、web ダウンロードできる専用の健康診断書が必要(健康検査項目表)。肺結核検査・腸内検査(検便)・梅毒検査・麻疹風疹抗体検査などが含まれる。台湾大学提出用の健康診断表と合わせて、渡航が決まったら早めに保健センターへ相談に行くのがよい。居留査証で台湾に入ったら、2 週間以内に移民署へ行き「居留証」を申請する。このとき、緊急連絡先的な台湾在住者の情報(氏名・住所・電話番号)が求められる。台湾人である必要はなく、電話が行くということも無いと思うが、知人なり現地で知り合った友人なりにお願いする必要がある。「居留証」があると、有効期間中は自由に複数回台湾を出入りできる(ただしコロナウイルス関連の影響を除く)。

■ 医療関係の準備/Preparations or actions taken to maintain your health :

健康診断については上述。滞在予定が台北市内に限定されることもあり、保健センターと相談の上、予防接種は A 型肝炎のみ接種した。

■ 保険関係の準備/Preparations/procedures for insurance :

大学指定の付帯海学。

■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo :

博士課程で単位は既に取り終えていたこともあり、履修関係は特に悩みは無かった。ただ、D3 夏→D4 夏での留学だったので、博士課程の標準年限を超えるために必要な書類提出(1 月)を代理でお願いする必要があった。また、文学部・人文社会系研究科では渡航前に「留学許可願」を留学開始の 1 ヶ月前に出す必要がある。この情報および書類自体はホームページ上で手に入ったのだが、それは月に 1 度の(しかも 8 月は開催されない)教授会で承認される必要があるという情報はホームページに書いておらず、たまたま相談に行った事務の方に言われて初めて知り、結局 7 月上旬に大慌てで指導教員印や研究室主任印などを集めて「留学許可願」を出す必要があった。

■語学関係の準備/Language preparation :

IELTS7.5、HSK5 級(240 点くらい)。ただし台湾大学の語学要件は英語か中国語のどちらかであった。HSK は大陸系の試験だが、いちおう要件として認めてくれるようである(台湾の大学本科に入学する場合は台湾の TOCFL という試験が必要)。留学生の目に触れる書類や学内掲示などは英・中のバイリンガル表記が多いし、台湾大学の教員・学生に限らずキャンパス内外で日本に比べて英語の堪能な方が多い気がしたが(英語圏からの留学生が多く来ているからであろう)、学内外での日常的なコミュニケーションはやはり中国語メインで行われているので、中国語力はどれほどあっても十分ということはない。

費用・奨学金に関すること/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■参加するために要した費用/Expenses of participation :

航空費/Airfare	70,000 円/JPY
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)/Payment to host institution (tuition, facilities fee, etc.)	0 円/JPY
教科書代・書籍代/Textbook / Book	50,000 円/JPY
海外留学保険料(東京大学指定のもの)/Overseas travel insurance fee (designated by UTokyo)	80,000 円/JPY
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)/Insurance and/or social security (required by host institution/region/country)	0 円/JPY

■その他、補足等/Additional comments :

語学要件(IELTS)などがあるため、その受験料や対策費などが別途必要だった。

■留学先での毎月の生活費/Monthly cost of living during the study abroad period :

家賃/Rent	28,000 円/JPY
食費/Food	35,000 円/JPY
交通費/Transportation	0 円/JPY
娯楽費/Entertainment/Leisure	10,000 円/JPY

■その他、補足等/Additional comments :

日本における生活と同様、日用品などが別途必要。

■留学のための奨学金の受給有無/Scholarships for study abroad :

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :

一般財団法人霞山会

■受給金額(月額)/Monthly stipend :

120,000 円

■受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :

■奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :

知人から聞いた

今後の予定について/About your future plans

<p>■ 留学先で履修した授業科目のうち、単位認定申請をする(予定のもの/The subjects for which you plan to (are planning to) transfer credit to UTokyo :</p>
なし
<p>■ 留学前に取得済みの単位数/Number of credits earned at UTokyo BEFORE your study abroad :</p>
28 単位/credit(s)
<p>■ 留学先で取得し、単位認定申請を行う(予定の)単位数/Number of credits earned and (planned to be) transferred to UTokyo :</p>
0 単位/credit(s)
<p>■ これから本学で取得予定の単位数/Number of (expected) credits to be earned on return :</p>
0 単位/credit(s)
<p>■ 卒業/修了予定/(Expected) year/month of graduation :</p>
2020 年 3 月

### 留学を振り返って/Reflection

<p>■ 留学の意義、その他所感/Impact of the study abroad experience on yourself or your thoughts :</p>
<p>留学の意義として一般的に言われる語学強化や貴重資料の閲覧などはもちろんだが、それ以外の細かな点についても、2~3 日の海外学会報告などでは得られないような体験が、当然できたと思っている。それは例えば、図書館の蔵書をじっくりと眺め、時たま掘り出し物のような文献に出会ってコピーを取ることであったり、ゼミに参加しながら報告者のレベルや使用している文献の特徴などを感じることであったり、あるいはゼミも含めて様々な報告を聞くなかでプレゼンテーションのやり方(日本との違い)を観察することであったりする。また、言葉が通じにくい海外で1年弱暮らすというのは、月並みな表現だが、ささやかな自信にもなる。自分が観光客の身分であったり、あるいは本当に言葉に不自由しないレベルの語学力があれば別だが、私の場合、言葉が通じなかったり、言いたいことをうまく表現できずにもどかしい・恥ずかしい思いをすることが多く、それは最初から最後まであまり快い体験ではなかったが、そのようなささやかな挫折を数多く味わうことができたことは、留学の意義のひとつであったように思う。同時にそのような恥ずかしく惨めな経験は、日本に帰れば身の回りに数多くいる留学生への想像力を養うことにも繋がると思う。残念なことは、自分が博士課程であり自身の研究を行わなければいけないということと、また自身の語学力の不足もあって、現地の普通の大学生が受けているような授業を数多く履修して、例えば台湾大学の学生はどのように中国古典・中国哲学を学習していくのかを肌感覚で知ることができなかったことである。ただし、これはネット上で公開シラバスを見つつ、台湾で経験した授業感覚と照らし合わせながら補完することによって、ある程度想像することができると思う。</p>
<p>■ 今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or job hunting :</p>
<p>留学後は引き続き博士課程に残って研究を続ける予定であったが、縁あって帰国直前に次世代人文開発センターの特任助教(国際担当)の職を得ることができた(それゆえ予定より少し期間を早めて留学を切り上げ帰国することとなった)。採用プロセスでどのような議論があったのかは分からないが、留学を通じた国際経験が評価された面もあるのかもしれない。</p>
<p>■ 留学による今後のキャリア・就職活動へのメリット・デメリット/Merit/Demerit of studying abroad on your future career/job hunting :</p>

アカデミア就活で1年間の交換留学がどう作用するかは、それを評価する側次第なので何とも言えない部分はあるが、最も分かりやすいメリットは語学(中国語)の非常勤講師の口が今後あるかもしれない、という点だろうか。長期留学を経験した人材が少ない分野であれば、それだけで自身の差別化にもつながるだろう。デメリットは、言うまでもなく留学した分だけ博士論文の提出(修了)が遅れることである。研究分野によっては、日本で普段使っていた資料が入手しにくくなり(たとえば東大の書庫や国会図書館など)、研究のスピードが落ちるということもあり得る。また、D4(つまり標準就業年限)以降の年度を跨ぐ留学は、様々な学内書類(学生証交換含む)の提出や、国民年金(学生納付特例)の手続きなどで面倒なことが多い。日本の年度が9月始まりになるとこのような面倒も解決するのだが、当面は無さそうである。

■留学中に行った就職活動/Job hunting activities during study abroad:

学会・セミナーに参加した

■進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned):

研究職、東京大学次世代人文学開発センター特任助教

■今後留学を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants:

ただひたすらに勉強すれば良い学部留学や、あるいは社会人のMBA留学などとは異なり、博士課程の学生は、留学先でも、留学以前から行なっている自分の研究を放り出す訳にはいかないと、少なくとも私は思っています。それゆえ、留学の目的意識も学部生の留学とは変わらざるを得ません。語学の強化・現地資料調査を含めた自分の研究・人脈の構築・文化交流を含めた自身の価値観の再検討など、様々なポイントについてバランスを取りつつ、将来の目標(おそらく多くの人文系博士課程の学生にとっては、当面の目標はアカデミア常勤職への就職だと思います)を見据えた留学を計画する必要があるでしょう。また、ニアネイティブなどでない限り、やはり語学力はどれだけあっても足りませんので、自身の許す範囲で出発前に語学力を増強しておくと思いいます。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas:

ネット上に日本語で書かれた台湾の情報は山ほどあるし、また台湾へ留学した方のブログなどもいくつかあったが、ほとんどが短期の語学留学であり、1年の長期留学については情報がほとんどなかったと思う(特に居留ビザ→居留証交換の細かい手続きについては、代表処の公式ページ以外はほとんど情報がなかった)。

## 東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from one semester to a year)

記入日/Date: 2020/1/22

■ID: A19123

■参加プログラム/Program: 全学交換留学

■プログラム情報/Program info.: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

■派遣先大学/Host university: 国立台湾大学(NTU)

■留学期間/Program period: 9/3/2019 ~ 1/13/2020 (MM/DD/YYYY)

■東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 教養学部教養学科地域文化研究分科アジア・日本研究コース

■学年(留学開始時)/Year at the time of study abroad: 学部3年

■留学を決めるまでの経緯/How and why did you decide to study abroad?:

最初は別な大学へ留学へ行くことを希望していた。ただ、交換留学の枠の関係でその大学に行くことができなかったため、第二志望としていた台湾大学に行くこととなった。正直、そこまで深く考えずに台湾を希望として出していたと思う。台湾に留学しなければ絶対に勉強できないことがあって、そのために留学を選択したという感じではない。しかし、そうと決まった以上、現地で何をしたいのか、そのために何を必要があるのかということをおお程度固めてから現地に赴いた。

留学の時期について/About the timing of the study abroad period

■留学前の本学での修学状況/Academic status BEFORE the program:

2019年/Academic year / 学部3年/University year / S2学期まで履修/Completed semester

■留学中の学籍/Academic Status during the studying abroad/program:

留学

■留学後の本学での修学状況/Academic status ON RETURN:

2019年/Academic year / 学部3年/University year / A1学期から履修開始/Semester

■留学にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to study abroad:

学科の先輩に、この時期から留学を開始された方が多かったため。

学習・研究について/About study and research

■留学先で履修した授業科目と単位数の詳細/Subjects taken and credits earned:

国際生華語 (一)/3

国際生実用華語 (一)/1

国際生商務華語/2

日文翻譯一上/2

東亞各國政治文化經濟/2

■留学中の学習・研究の概要/Overview of the study/research during study abroad:

<p>中国語を学習する授業と、主として留学生を対象として英語で開講されている授業の 2 種類を受講した。前者では、単語力を増強させることを意識した。台湾人と交流する際に中国語を用いればある程度アウトプットの機会は確保できるが、それに見合うだけのインプットがなければならぬと思ったからだ。テキスト内に出てくる単語の意味・正確な発音を定着させることに意を用いた。後者に関しては、台湾の映画や自然に関する授業を受けていたが、次第に授業への関心を失っていき、履修を取りやめることにした。結果として、政治学科で開講されている授業のみを受講することになった。ここでは、授業内で他の学生と討論する時間が十分に設けられており、異なる観点から同じ事象を分析する良い機会となった。</p>
<p>■留学先での 1 学期あたりの履修科目数と履修単位数/Number of subjects registered per semester and credits earned per semester :</p>
<p>4~6 科目/Subjects / 1~10 単位/credits</p>
<p>■1 週間あたりの学習・研究に費やした時間/Hours spent for study/research per week :</p>
<p>6~10 時間 時間/hours</p>
<p>■学習・研究以外の活動で取り組んだもの/Activities you took part in other than study/research :</p>
<p>取り組んでいない。</p>
<p>■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由/Details of the activities you chose、 or the reason why you did not take part in any activity other than study/research :</p>
<p>日本の大学のサークルに相当するものに加入することを検討はしたが、結果としてあまりコミットすることはなかった。そこまでやりたいと思える活動がなかったこと、加入せずとも授業など他の機会に台湾人の知り合いを作ることが十分可能であったこと、この 2 点が大きな理由であろう。</p>
<p>■週末や長期休暇の過ごし方/How did you spend the weekends and vacations? :</p>
<p>暇な友達を捕まえてどこかへ出かけることが多かった。これは、中国語や英語を話さねばならない環境に身を置くという点で、語学力の増強にもかかったものだったと思う。ある程度まとまった時間が確保できるときは、地方都市へ旅行に出かけた。台湾自体そこまで大きな島ではないので、旅行は比較的容易である。</p>

派遣先大学の環境について/About environment at the host institution

<p>■設備/Facilities :</p>
<p>図書館地下の自習室は 24 時間空いている。寮内にジムがある。キャンパス内の食堂は、東大と比べると極めて充実している。無制限で利用できる sim カードを購入していたため、Wifi 環境は不明である。</p>
<p>■サポート体制/Support for students :</p>
<p>個々の交換留学生に現地学生のチューターがつく。台湾到着前から履修や生活のことについて相談することができた。また、どこへ行っても日本語ができる人が一人はいるというのが台湾であり、精神的に強い負荷がかかる場面は少ないのではないと思う。周りにいる人に頼ることで、大体のことは解決できるだろう。</p>

プログラム期間中の生活について/About life during the program

<p>■宿泊先の種類/Type of accommodation :</p>
<p>学生寮</p>
<p>■宿泊先の様子、どのように見つけたか/Environment around the accommodation and how did you find it :</p>
<p>オンキャンパスの学生寮。基本的に交換留学生は希望さえすれば、大学付属の寮に住むことが可能であ</p>

る。特別にこちらから申し出ずとも、担当部署からメールで連絡がある。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等/Climate、environment around the institution、transportation、food、etc.:

もちろん日本より暖かい期間は長いのだが、昼夜の温度差は思ったより大きかった。深夜バスや長距離列車などでは冷房が強いので、何か羽織るものがあった方が良い。大学周辺は学生街の様相だが、飲食店の比重が明らかに大きい。食べる場所やドリンクスタンドを除くと、あまり特色のあるものはない。交通については、YouBike と呼ばれる公共レンタサイクルが便利である。食べ物で困ることはないだろう。キャンパス内外を問わずバリエーションが充実している。寮にキッチンがないのも十分に首肯しうる。日本食店も数多くあり、日本と品質に大差ないものが日本より安価で楽しめる。

■お金の管理方法、現地の通貨事情/Management of money and situation about local economy:

口座開設には台湾でマイナンバーに相当するものを発行する必要がある。自分は中国信託銀行(都市部のほぼすべてのセブンイレブン内に ATM がある)で口座を開設した。ただ、クレジットカードでキャッシングを行う際には、手数料のかかる中国信託銀行は避けた。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理/Aspects of risk and safety management、local health care system、and any actions taken to maintain your health:

治安は極めて良好である。医療に関しては、学内に診療所があり、キャンパス周辺にも薬局がたくさんある。軽い体調不良程度であれば、何の問題もない。

#### 留学前の準備・手続きについて/About preparations and procedures before studying abroad

■留学先への入学手続き/Procedures for enrollment required by the host institution:

特に煩わしい手続きは必要はなかった(語学能力の証明書さえ求められなかった)。担当部署からメールが送られてくるので、その指示に従えば問題ない。

■ビザの手続き/Procedures to obtain visas:

半年間の停留ビザの場合、提出書類はそこまで多くなかった。経済文化代表処のホームページに詳しく案内がある。

■医療関係の準備/Preparations or actions taken to maintain your health:

大学から指定の様式の提出を求められる。駒場の保健センターで十分に対応可能なものだった。

■保険関係の準備/Preparations/procedures for insurance:

本部国際交流課の方からメールが送られてくるので、その通りに手続きを行う。保険会社とのやり取りの際、一部のメールが迷惑メールのフォルダに振り分けられた(Gmail)。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo:

留学許可願を学部の方に提出した。コース主任・分科主任の方の印鑑が必要であった。また、当然ではあるが、コース主任や卒論指導をお願いする予定の教員に今後の留学の予定・卒業予定などを説明し、理解を求めた。

■語学関係の準備/Language preparation:

1年生のときに第二外国語として中国語を選択していたが、その後も継続して学習をしていなかった。台湾への留学が決定したのが2年生の春休みのときであり、3年生の前期に慌てて中国語の学習を再開した(駒場で開講される、後期課程生も受講可能な授業に参加)。台湾到着当初は、旅行会話+αがこなせる程度であった。もちろん、現地語ができればできるほど、現地での生活がより充実したものになることは間

違う。例えば、現地語が十分にこなせれば、現地語のみで開講される授業に参加することも可能だろう。ただ、これくらいできれば十分であるという一定の基準があるわけではないので、行く前から自分の現地語の能力は十分ではないのではないかと必要以上に思い込まずともよいのではないかと思う。

費用・奨学金に関すること/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■参加するために要した費用/Expenses of participation :

航空費/Airfare	40,000 円/JPY
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)/Payment to host institution (tuition、facilities fee、etc.)	2,000 円/JPY
教科書代・書籍代/Textbook / Book	10,000 円/JPY
海外留学保険料(東京大学指定のもの)/Overseas travel insurance fee (designated by UTokyo)	45,000 円/JPY
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)/Insurance and/or social security (required by host institution/region/country)	0 円/JPY

■その他、補足等/Additional comments :

ビザ取得費用(6ヶ月間有効でマルチの停留ビザを取得):10000円

■留学先での毎月の生活費/Monthly cost of living during the study abroad period :

家賃/Rent	28,000 円/JPY
食費/Food	30,000 円/JPY
交通費/Transportation	2,000 円/JPY
娯楽費/Entertainment/Leisure	10,000 円/JPY

■その他、補足等/Additional comments :

■留学のための奨学金の受給有無/Scholarships for study abroad :

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :

JASSO

■受給金額(月額)/Monthly stipend :

60,000 円

■受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :

■奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :

大学(本部)からの紹介

今後の予定について/About your future plans

■留学先で履修した授業科目のうち、単位認定申請をする(予定のもの)/The subjects for which you plan to (are planning to) transfer credit to UTokyo :

国際生華語 (一)/3

国際生商務華語/2 日文翻譯一上/2 東亞各國政治文化經濟/2
<b>■ 留学前に取得済みの単位数/Number of credits earned at UTokyo BEFORE your study abroad :</b>
46 単位/credit(s)
<b>■ 留学先で取得し、単位認定申請を行う(予定の)単位数/Number of credits earned and (planned to be) transferred to UTokyo :</b>
8 単位/credit(s)
<b>■ これから本学で取得予定の単位数/Number of (expected) credits to be earned on return :</b>
30 単位/credit(s)
<b>■ 卒業/修了予定/(Expected) year/month of graduation :</b>
2022 年 3 月

留学を振り返って/Reflection

<b>■ 留学の意義、その他所感/Impact of the study abroad experience on yourself or your thoughts :</b>
<p>台湾人や他の国から来た留学生と交流する経験を十分に積むことができたと思う。経験値を高められらというのがやはり一番大きい。異なる文化的背景を持つ人ともある程度うまくやっていくことができるという自信が多少なりとも自分の中に芽生えた気もする。その中でも特に気が合うと思える友人と出会えたのは幸運であった。言語の壁というのが確実に存在するということを実感した一方で、共通の関心・趣味さえあれば言語はそれほど大きな問題ではないということも思い知った。総じてこの留学にはかなり満足しているが、反省点としては、より高度な中国語を学習する授業を履修していてもよかったという点である。恐らく最初の段階では手も足も出なかつただろうが、セメスターの間を通して、何とか授業のレベルに追いつくことも可能だったのではないかと思う。台湾大学へ留学することを第一希望とはしていなかったのだが、結果として本当に良い場所を選択したなとつくづく思う。東大から交換留学で台湾大学に行く学生など毎年 1・2 人の世界である。逆に台湾大学から東大へ交換留学で勉強しに来ようと思えば、その 1・2 人の枠を巡って、毎年熾烈な競争になるわけである。台湾大学の学生からすれば、東大から来た学生は珍しいし、何となくすごいと感じられるのだろう。東大という名前だけで、友達を作る際のハードルを格段に下げることができるのは、世界でも台湾くらいではないだろうか。台湾大学の学生は間違いなく東大からの学生を暖かく迎え入れてくれるだろう。日本やその文化に対して深い関心を寄せる人が本当に多いことにも驚かされた。日台間の文化的・人的交流の幅と奥の広さを思い知らされた。</p>
<b>■ 今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or job hunting :</b>
<p>正直なところ、今回の留学を通して自分のキャリア観が大きな変容を遂げるということにはなかつたような気がする。</p>
<b>■ 留学による今後のキャリア・就職活動へのメリット・デメリット/Merit/Demerit of studying abroad on your future career/job hunting :</b>
<p>半年ないし 1 年間、日頃とは異なる環境に身を置いて学習・生活することになるので、就職活動の際に話すネタ・引き出しが増えることは間違いないだろう。もちろん、卒業を 1 年伸ばさねばならないケースも多いと思うが、デメリットというのはあまり思いつかない。</p>
<b>■ 留学中に行った就職活動/Job hunting activities during study abroad :</b>

いずれも行っていない。

■進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned):

公的機関、民間企業

■今後留学を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants:

台湾は生活という点でも人との交流という点でも、そこまで高いハードルを感じずに生活できる場所であると思う。東大からの学生は本当に大歓迎なので、ぜひ台湾も留学先の選択肢の1つとして検討していただけると嬉しい。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas:

これまで台湾大学に留学された方の体験記